

●久野寧記念賞受賞講演会と環境生理学グループミーティングを開催

名古屋大学大学院医学系研究科・統合生理学 中村 和弘

2021年3月26日に久野寧記念賞受賞講演会をオンライン開催しました。久野寧記念賞(久野賞)は、環境生理学に関連した優れた論文を筆頭著者として発表した40歳未満の日本生理学会員を表彰する、学会公認のグループディナー賞です。学位取得後、継続的に業績を挙げ、環境生理学分野での活躍が期待される若手研究者1~2名に毎年授賞しています。1995年度の第1回から数えて今年度(2020年度)で第25回の久野賞となり、四半世紀続く歴史ある賞になりました。これまでの受賞者一覧は学会ウェブサイトのグループディナー賞のページから御覧頂くことができます。

この賞の名前にある久野寧(くの やす)先生は、人体の発汗に関する世界初の本格的研究を行い、その知見をHuman Perspirationという大著にまとめられました。この書籍は現在でも体温調節研究のバイブルとなっています。1963年に文化勲章を受章され、ノーベル賞にも3度推薦された記録が残っています。1937年から18年間、名古屋大学医学部生理学(当時は名古屋医科大学)の教授として御活躍され、今でも久野先生の銅像が講義室の前で医学生達を見守っています。

例年、日本生理学会大会の前日に開催される環境生理学プレコンgresの中で受賞講演の機会を設けていますが、2019年度と2020年度はコロナ禍の中で開催ができませんでした。そこで、私が久野賞選考委員長を拝命した今回は、環境生理学分野を盛り上げる試みとして、受賞講演会を久野賞選考委員会の主催でオンライン開催しました。開催に御賛同頂きました多くの先生方に感謝申し上げます。

受賞講演会では、2019年度受賞者の岩崎有作博士(京都府立大学)が「腸GLP-1の求心性迷走神経を介した摂食・糖代謝調節作用」、2020年度受賞者の堀井有希博士(岐阜大学)が「冬眠時におけるCold-inducible RNA-binding proteinの選択的スプライシングによる発現調節」という演題で講演を行いました。いずれも今後の大きな発展が期待される成果で、講演後の質疑応答も活発に行われました。コロナ禍で難しいことが多い中、同じ研究分野の皆様とアカデミックな雰囲気を感じ



授賞式の写真(スクリーンショット)、上から岩崎有作博士と堀井有希博士。

られる楽しいひとときでした。

受賞講演会に引き続き、環境生理学グループミーティングを開催し、環境生理学関連研究室での昇進や、次の環境生理学プレコンgres・グループディナーが小山純正先生(福島大学)のお世話で仙台にて開催されることなどが報告されました。オンラインという形ではありましたが、50名を超える御参加を頂き、環境生理学分野の研究者や学生の交流を行うことができました。来年は元気に皆様と直接お会いできることを楽しみにしております。